

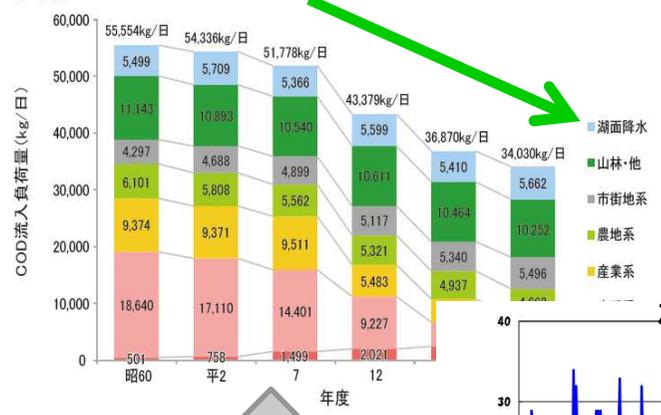
琵琶湖環境研究推進機構について



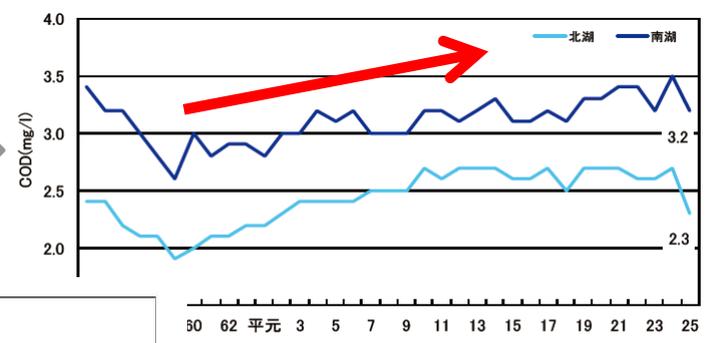
滋賀県琵琶湖環境部
環境政策課

滋賀県と琵琶湖の環境に係る新たな課題

COD 流入負荷量(COD)

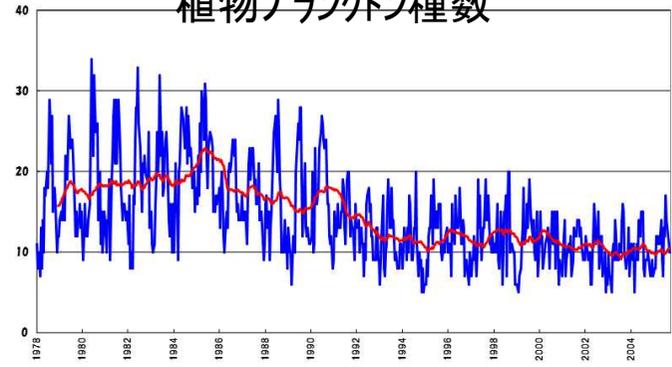


琵琶湖水質(COD)



内部生産増?

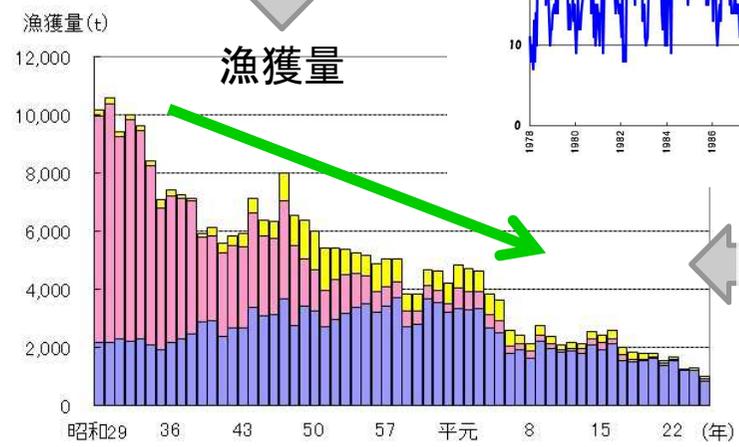
植物プランクトン種数



?

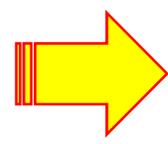
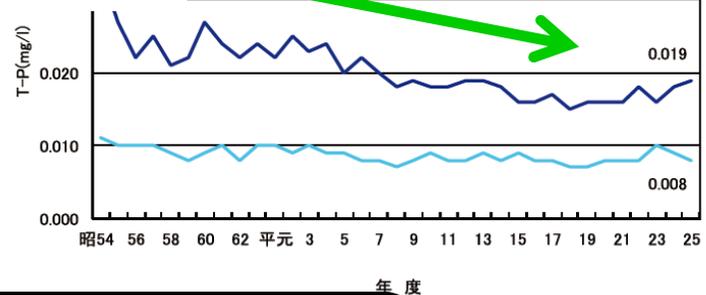
汚濁削減の効果は?

漁獲量



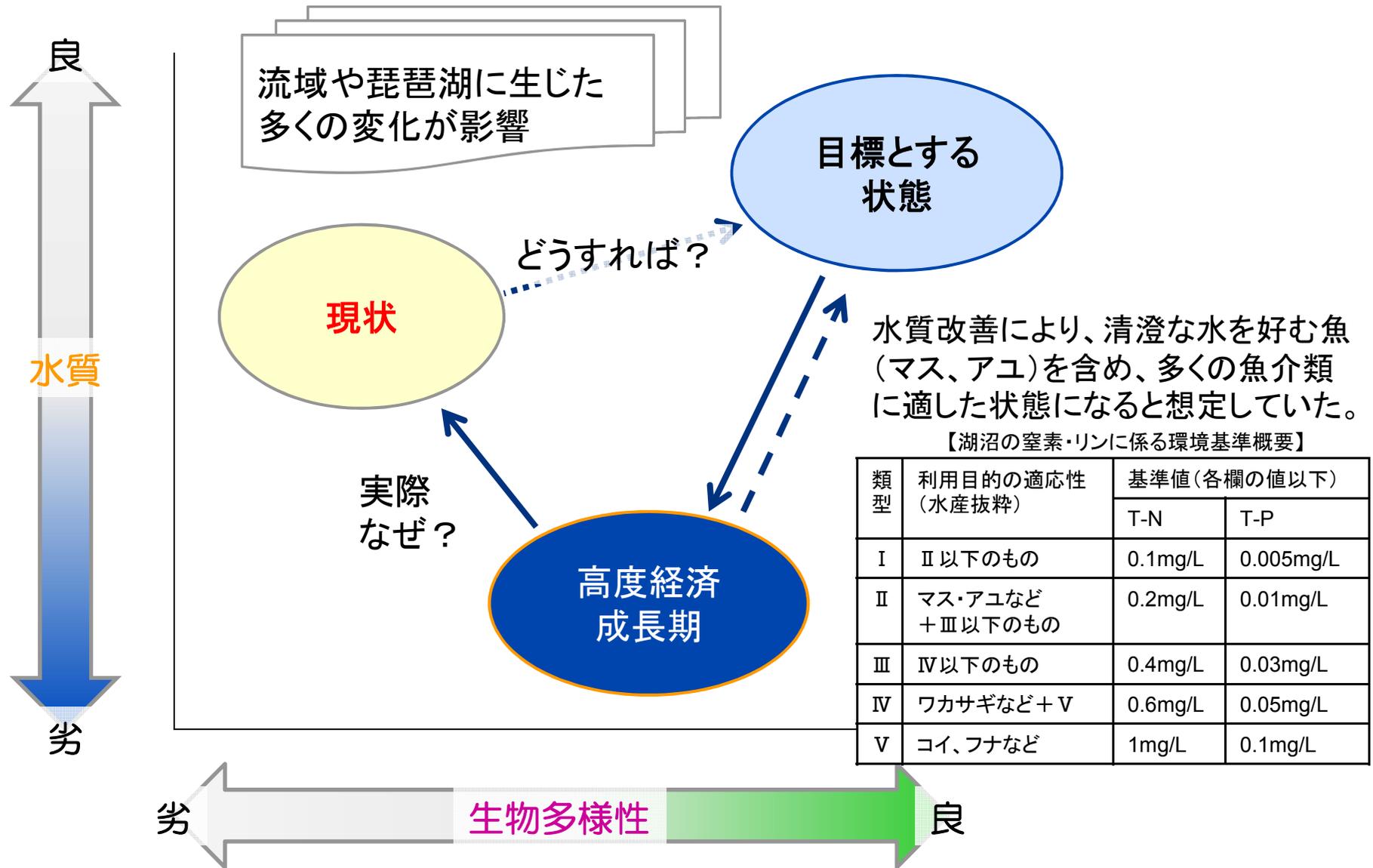
内部生産減?

琵琶湖水質(T-P)



汚濁負荷対策は進んだが、水質、生物ともに課題の解決には至っていない。

琵琶湖の水環境課題の変化イメージ

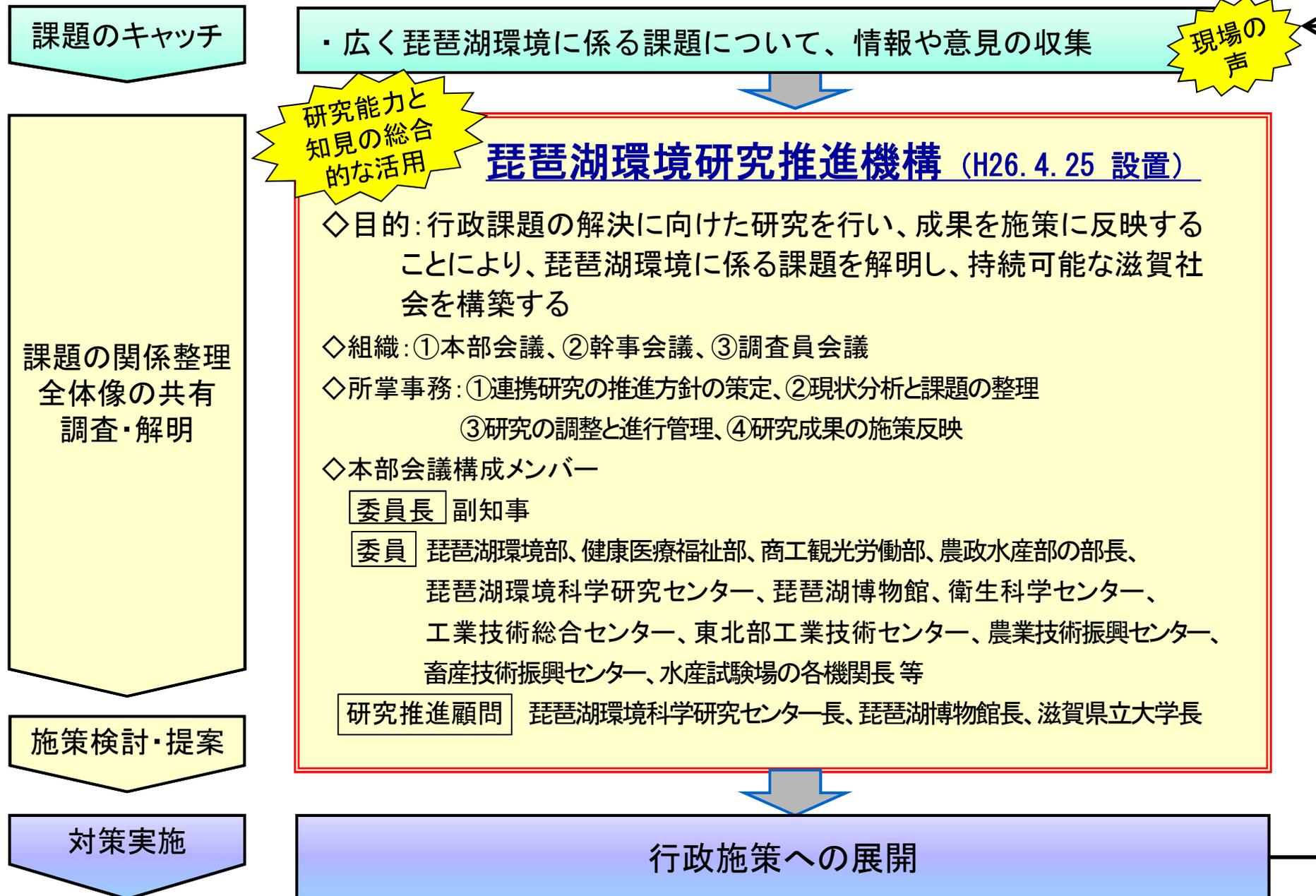


※環境省の閉鎖性海域での資料を参考に作成

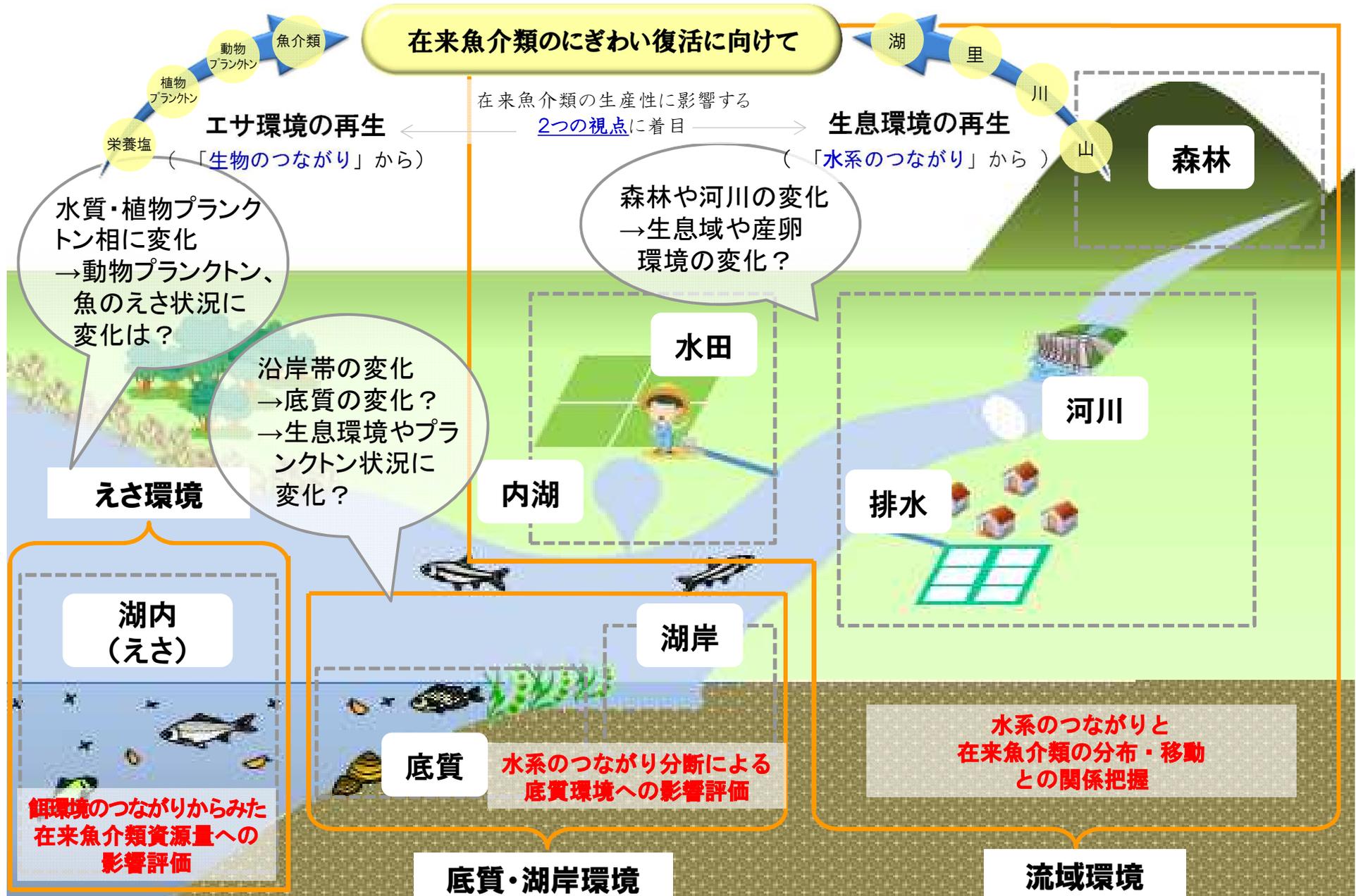
研究推進機構設置の考え方

- 直面する環境課題の多くは、その要因が互いに関係しあうことで複雑化・多様化している。
- このため、関係する多くの課題の全体像を俯瞰し、関係部局が課題を共有し、連携することが必要。
- 行政部局と県立試験研究機関が一堂に会して、課題の把握から、調査研究の実施、研究成果を踏まえた対策の立案に至る一連の保全スキームを新たに創設・運営する。

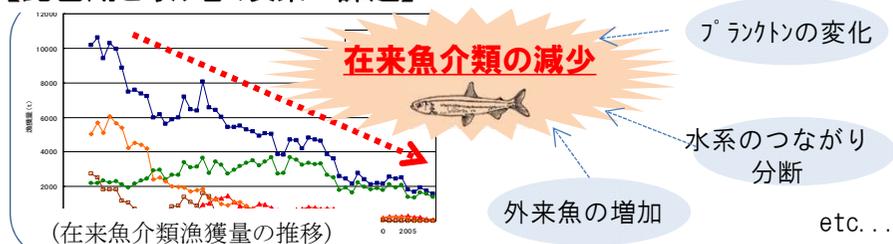
琵琶湖環境研究推進機構の概要



在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究イメージ



【琵琶湖を取り巻く喫緊の課題】



政策につなぐ研究の推進

魚介類の生息エリアに着目した研究内容設定

- ・湖底(セタシジミなど) → **底質・湖岸環境**
- ・湖と河川(アユなど)・湖と内湖等(ホンモロコなど) → **流域環境**

(**生息環境** と **餌環境** の視点からの研究)

在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究

1. 連携研究の推進

- 県連携機関：琵琶湖環境科学研究センター、水産試験場、琵琶湖博物館、農業技術振興センター

■ 生息環境の再生

- ① 底質・湖岸環境 15,349 千円
～シジミ類の生息環境等に影響～
・底質と底生生物との関係把握 (琵琶湖センター)
- ・人工湖岸化による底質への影響評価 (琵琶湖センター)
- ② 流域環境 8,599 千円
～アユ・ホンモロコの産卵適上等に影響～
・水系のつながりや環境条件の変化が魚類に及ぼす影響評価 (琵琶湖センター、琵琶湖博、農技センター、水試)

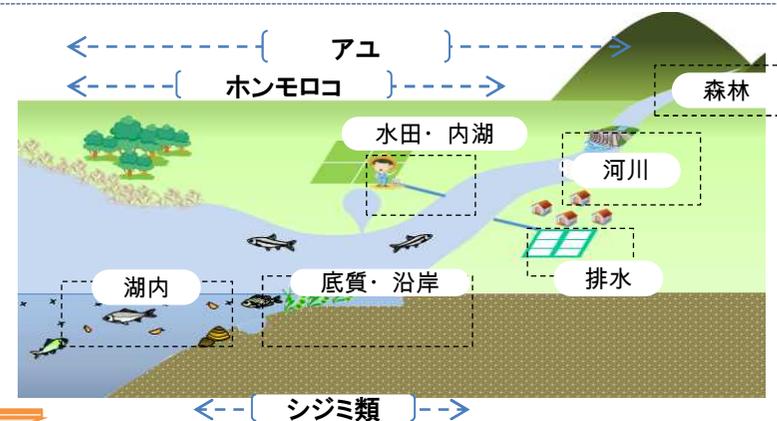
■ 餌環境の再生

- ③ 餌環境 6,143 千円
～アユ・ホンモロコ・シジミ類の生産力等に影響～
・餌環境相互の関係把握 (水質～植物・動物プランクトン～在来魚;琵琶湖センター(水試))
- ・餌環境からみた魚類資源量への影響評価 (モデル等による解析;水試)

2. 外部知見との交流

既存知見のレビュー資料作成と県内大学との研究会等の開催 (ゼロ予算)

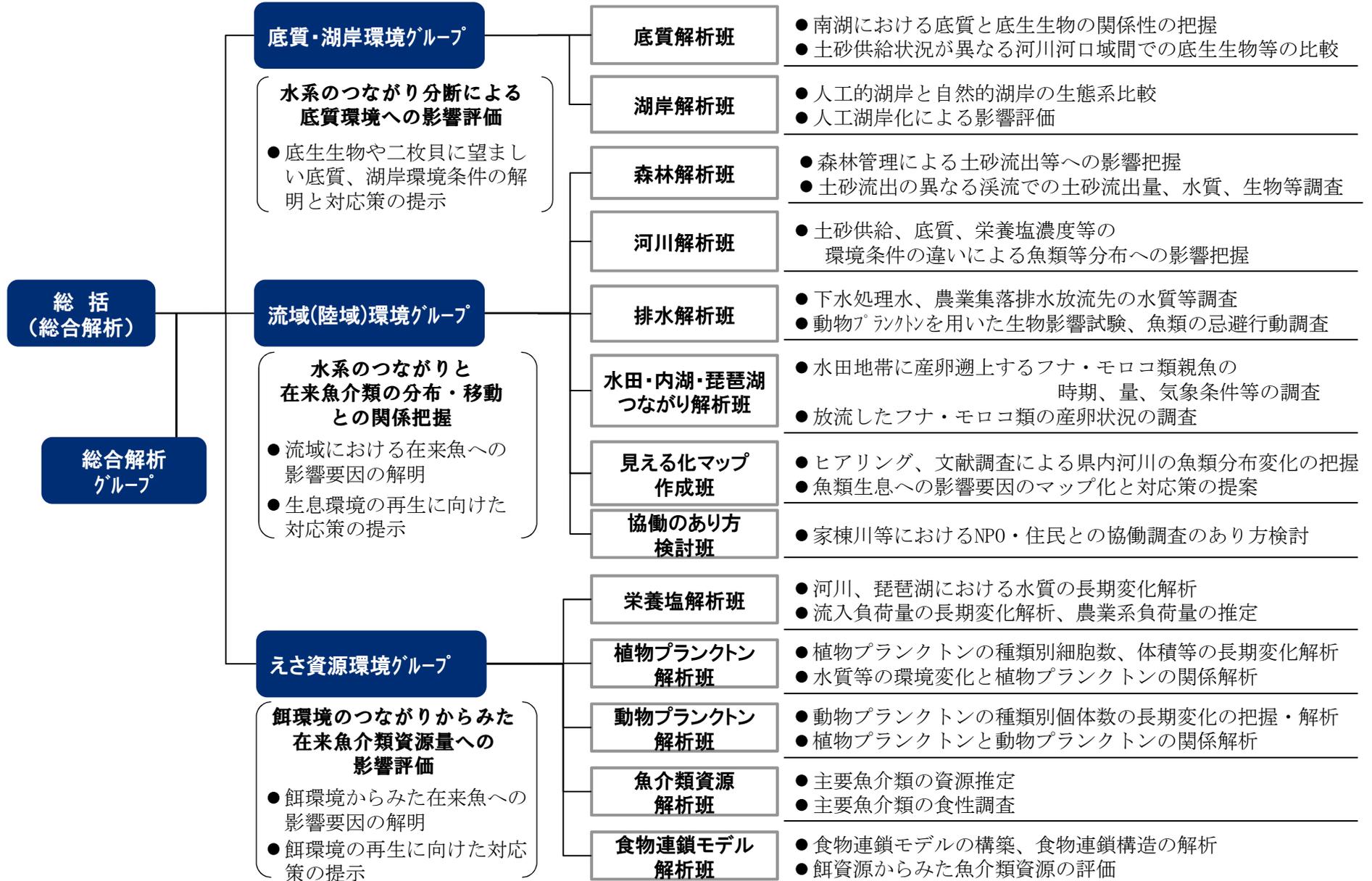
- 琵琶湖環境に係る既存知見について、行政担当者や異分野の専門家間で共有するためのレビュー資料作成
- 研究会等を通じた県内大学等の知見の収集、交流
→ 新たな共同研究への展開検討



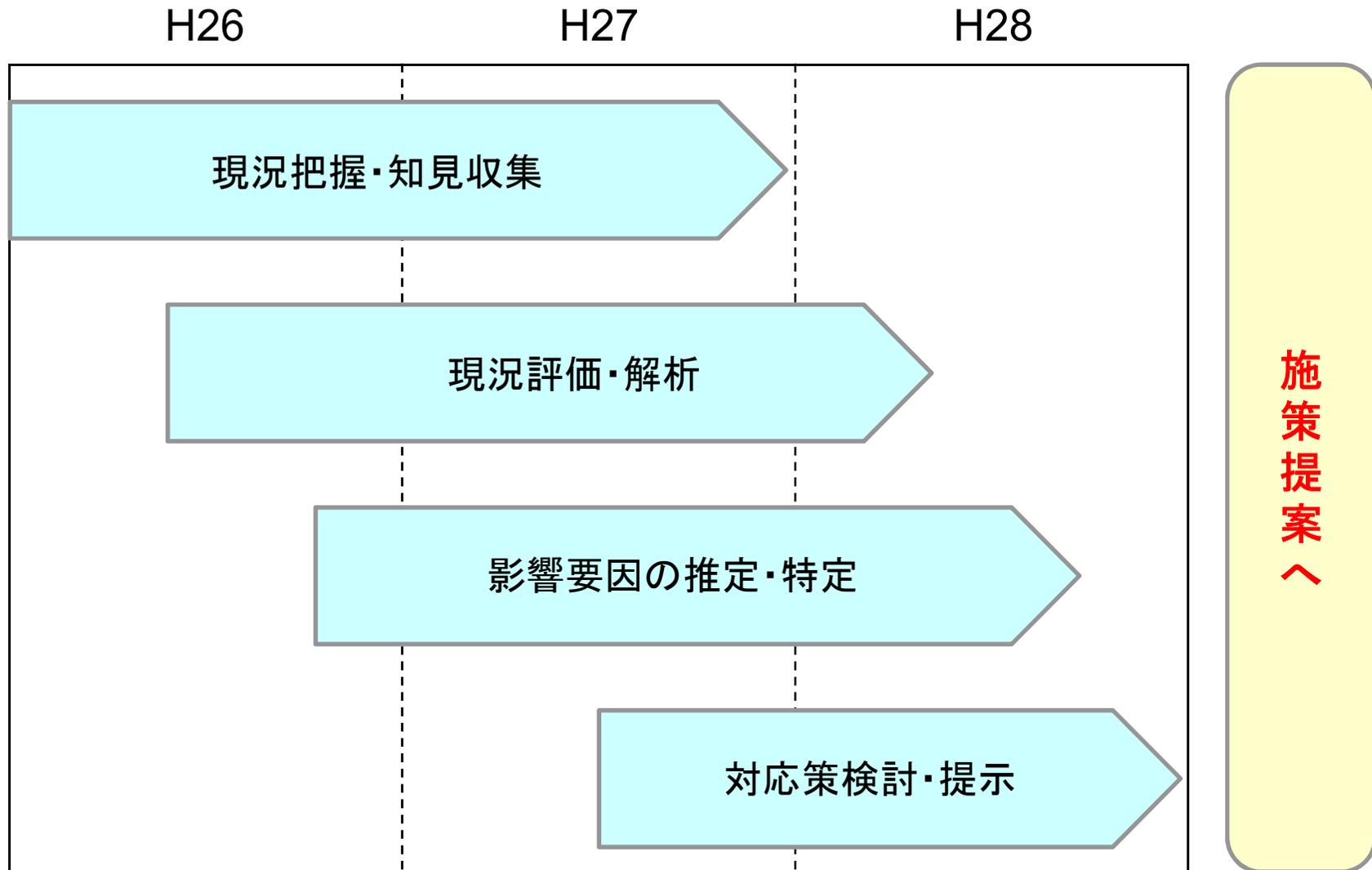
在来魚介類のにぎわい復活への方策説明

在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究体系

〔 主な取組内容 〕



研究のスケジュール



琵琶湖環境研究推進機構の特徴

- **つながりに着目・総合的に対応**
(複雑・多様な課題に対する大きな視点での研究)
- **研究者＋組織的な連携**
(研究対象・分担など設定時から共同)
(機関の個別ミッションを超えて連携)
- **行政と試験研究機関が横つなぎで一体的に推進**
(副知事をトップに、課題の整理・研究調整と進行管理・施策検討まで横断的に実施)
(試験研究機関を有しない部局とも円滑な連携へ)